



令和4年度第46回壁新聞コンクール作品展示

2ページ目も見てね♪

正会員みなさまには別途案内しましたが、1月7日(土)～14日(日)の間中は福井新聞社ギャラリーにおいて、今年度の壁新聞作品を展示しました。



応募作品のうち、高学年努力賞と低学年奨励賞以外の入賞作品は、2月6日(月)～13日(月)は小浜市役所にて、3月13日(月)～17日(金)は県庁1階、3月21日(火・祝)～26日(日)は県立図書館において展示されますので、ぜひ足を運んでいただきたいと思います。

前号に続き、12月11日(日)に開催された県子ども会育成研究大会のアンケート上の、2つ目の質問に対する河村先生の回答を紹介します。

【質問 2】

体験活動のアイデアがあれば教えていただきたいです。

【回答】

まず、子ども会の活動はすべて体験活動です。

子ども会活動は全国的には多岐にわたっており、その内容は、例えば次のように分類できます。

- 遊び活動: 日常的な遊び活動、イベント的なレクリエーション活動など
- 集団体験活動: 集団行動が意識される活動、キャンプや遠足など
- 社会的活動: あいさつ運動、清掃活動、廃品回収など
- 文化的活動: 読書会、読み聞かせ、かるた大会、壁新聞づくりなど
- 体育的活動: ドッジボール大会、相撲大会、ソフトボール大会など

(1977年刊行 全子連「子ども会の活動内容を考える」より)

もちろん、ある行事が複数の要素を含む場合もあり、中には上記のどの分類にもあてはまらない活動もありえます。

子どもたちにとっては、仲間内で目的をもって同じ時間を過ごし、体験を積み重ねることで、心の成長が期待されると思います。

子ども会ではありませんが、遊び・体験を重視している活動として有名なものに「羽根木プレイパーク」(<https://playpark.jp/>)があります。公園の一部を区切って、禁止事項を減らし、子どもたちが自主的にやりたいことができる空間を提供しています。

このような活動に発展するまでには、多くの困難があったことと思いますが、その活動は支持され、広がっているように思います。

このような大規模かつ費用がかかる活動は難しくても、身近なことで、いまの子どもたちが普段



体験できないことを考えていけばいいのではないのでしょうか。

例えば、私の周りで実践しているコンテンツですが、

〔鉛筆を削る・竹とんぼを作る、魚をさばく、しめ縄を作る、電子工作、スライムを作る、蚕を飼う、…〕

ちょっと私の身近なものに偏っていますが、このようなコンテンツはいろいろ考えられるのではないのでしょうか。ただ、なにかのコンテンツや遊びを提供しておけばいいということではないですね。

ものを作ることでなくても、野外活動や伝統芸能継承や美術鑑賞、etc。それだけでなく、例えば話し合い活動も重要な体験と思います。初めて司会をしたり書記をしたり、意見をまとめたり、はじめはうまくできなくて強く印象に残るかもしれませんし、うまくできて成功体験の1ステップになるかもしれません。

子どもにとってすべての体験が、特に原体験（感動を伴うような初めての体験）となるようなものとなれば、喜ばしいと思います。その体験をより深化させられるためには、単にイベント的に行事をこなすということではなく、見守り、サポートする役割が必要だと思っています。それは仲間であり、ジュニアリーダーであり、育成者であると思います。

（以上、河村先生からの回答を一部省略の上掲載しました。）



壁新聞展示会場風景、12.11 県子ども会育成研究大会写真掲載中



（県子連事務局）〒918-8135 福井市下六条町14-1
福井県生活学習館内（火～金 9時～4時45分）
TEL：0776-41-3908 FAX：41-3916
メールアドレス：fcdomokai@ia0.itkeeper.ne.jp



県子連 HP→